

座間味村へザトウクジラの骨格譲渡

10月30日(水)、入野の浜に埋められていたザトウクジラの骨の掘り起こし作業が行われ、沖縄県座間味村に譲渡されました。

ザトウクジラは、11月から3月に沖縄県近海などで子育てし4月に餌を求めて北上した後、南下する際に高知県沖を通過するとされています。同クジラは約8・6mの子クジラで、平成30年11月に熊野浦地区に腐敗した状態で漂着したことから、沖縄県沖に戻る途中で流れ着いたと見られています。重機や船が入れない狭い浜だったため、四国自然科学研究センターの谷内森秀二さんらが現地で解体し、入野の浜に埋められていました。

その後、砂浜美術館のスタッフがザトウクジラのホエールウォッシュングが盛んな座間味村へ声をかけたことがきっかけで譲渡が決まり、同村や黒潮町、高知大学などから約35人が参加し、掘り起こし作業を行いました。

同作業は、大方中央保育所の園児約25人が見学に訪れ、国立科学博物館の山田格さん(なまき)からクジラについて説明を受けました。園児か

らは、「とても大きい」と声が上がっていました。

約半日ほどですべての骨が掘り起こされ、夕方には座間味村の宮里哲村長(みやしろ)が来町し、譲渡式が行われました。

座間味村では有志約10人が「ザトウクジラ骨格標本プロジェクト」を立ち上げ、今後の展示方法や活用について考えています。同プロジェクトの大城晃会長(あきら)は、「骨を譲り受けることに責任を感じる。皆さんの協力で掘り起こしに至ったが、座間

味村でいかに展示できるかが大事。また、今後も2つのまちの交流が続けば嬉しい」と話しました。

骨格は、標本にするための処理が行われた後、座間味村に展示される予定です。



掘り起こされたザトウクジラの骨



骨の前で説明を受ける園児ら

サッカーボールを蹴ってみよう!

11月3日(日)、土佐西南大規模公園人工芝グラウンドで「サッカーボールを蹴ってみよう!」が開催されました。

同イベントは11月のスポーツ月に合わせ、町体育会に所属するFC KUROSHIO 84が「サッカーに興味を持ち、少年サッカーを始めるきっかけになってほしい」と主催し、町内在住の園児17名が参加しました。

園児らは、準備運動やボールを使ったパスやシュートの練習の後、大人対子どもゲームを行い、ボールを追いかけ一生懸命走っていました。



ボールを蹴る園児

園児からは、「ボールを蹴るのが楽しかった!」「またサッカーをしたい!」などの声が聞かれました。

洪水・土砂災害避難訓練

11月16日(土)、伊与喜小学校区の6地区で洪水・土砂災害の避難訓練が行われました。

同訓練は、区長や有志が集まり3回の防災ワークショップを通じ作成された「自主避難計画」に基づき実施され、住民約80人が参加しました。

藤縄地区では、各家庭に配布された雨量計に雨が降った想定で水を入れ、その雨量を生駒進区長が確認し、告知端末機から避難を誘導する放送を流しました。放送を聞いた住民らは、徒歩や車などで避難をしました。

訓練後は、伊与喜小学校で訓練の振り返りが行われ、京都大学防災研究所の矢守克也教授が、「土砂災害では2階に避難することで助かる可能性が数倍上がる。また、雨が上がってから水位が上がることもあるので上流の拳ノ川地区と



雨量を確認する生駒区長

情報の共有をする必要」と話しました。17日(日)には、佐賀北部でも同訓練が行われました。